

## 今日のトピック 原油価格の動向（2017年2月） 協調減産効果で堅調に推移

### ポイント1 OPECが協調減産を開始 減産目標の90%を達成

- 石油輸出国機構月報（OPEC Monthly Oil Market Report）の最新号によれば、2017年1月のOPEC総生産量は日量3,214万バレルとなりました。16年11月末のOPEC総会で合意した原油生産量の上限である同3,250万バレルを同36万バレルほど下回る水準です。国際エネルギー機関（IEA）は、OPECの当初の減産は目標の90%に達したと述べています。
- 前月の生産実績である同3,303万バレルと比較すると、同▲89万バレル、率にして▲2.7%となりました。特に最大の産油国であるサウジアラビアが合意に従って大幅な削減（同▲50万バレル、▲4.8%）を実施したことが貢献しました。

### ポイント2 2017年は供給不足へ 需要見通しが上方修正

- IEAは、17年における世界の原油需要予測を、1月時点の前年比130万バレル増から同140万バレル増に上方修正しました。IEAは、昨年11月に合意されたOPECの生産枠が遵守されれば、原油の需給は17年前半に供給不足に陥ると見えています。

### 今後の展開 需給好転で価格は堅調な推移が見込まれる

- OPECの減産は進んでいますが、原油価格はバレル当たり50ドル前半でもみ合う展開となっています。OPEC合意が今後も遵守されるのか、合意の期限である今年7月以降の延長があるのか等の不透明感や、米国のシェールオイルが増産に向かうのではないかと懸念が上値を抑えていると考えられます。
- 需給動向から判断すると、協調減産が維持される限り、原油価格が大きく崩れる公算は小さいと考えられます。一方、価格がバレル当たり55ドル～60ドルを超えると、シェールオイル増産の可能性があり、上値の余地も限定的と考えられます。当面のところ、原油価格は同50ドル近傍での推移となりそうです。

ここもチェック！ 2017年 1月12日 最近の「シェールオイル」の動向（グローバル）  
2016年12月16日 原油価格の動向（2016年12月）

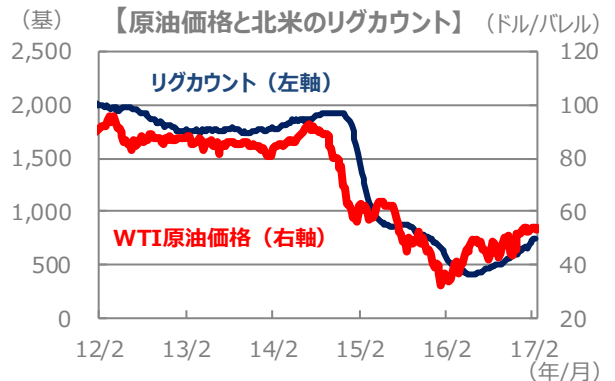
■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【主要産油国の生産枠】

(単位：万バレル/日)

OPEC加盟国	生産量の上限	生産実績	
			上限との差
サウジアラビア	1,006	995	▲11
イラク	435	448	▲13
イラン	380	378	▲3
UAE	287	293	▲6
クウェート	271	272	▲1
<b>OPEC総計</b>	<b>3,250</b>	<b>3,214</b>	<b>▲36</b>

(注1) 2016年11月末開催のOPEC総会での合意事項。  
(注2) OPEC加盟国14か国のうち生産量上位5か国。OPEC総計にはその他加盟国も含まれる。単位は万バレル/日。  
(注3) 生産実績は2017年1月の値。  
(注4) 四捨五入の関係で、生産量上限と同実績の差が上限との差と一致しない場合があります。  
(出所) OPEC「OPEC Monthly Oil Market Report」2017年2月号等を基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データ期間は原油価格が2012年2月3日～2017年2月21日。リグ稼働基数が2012年2月3日～2017年2月17日、週次データ。WTIは原油価格の代表的な指標のひとつ。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成